

1. 略歴

- 1997年3月 東京大学文学部行動文化学科社会学専修課程卒業
- 1997年4月 東京大学大学院人文社会系研究科社会文化研究専攻修士課程入学
- 1999年3月 同 人文社会系研究科社会文化研究専攻修士課程修了
- 2002年3月 同 博士課程単位取得退学
- 2004年4月 札幌学院大学社会情報学部講師（～2006年3月）
- 2005年5月 博士（社会学）学位取得（東京大学）
- 2006年4月 札幌学院大学社会情報学部助教授
- 2007年4月 信州大学人文学部准教授
- 2012年4月 東京大学大学院人文社会系研究科准教授
- 2019年4月 ブリストル大学政策研究院客員研究員（～2019年9月）

2. 主な研究活動

a 専門分野

コミュニティの社会学、ハウジングの社会学、社会調査史

b 研究課題

- (1) 建造環境と社会構造の関係についての理論的・経験的研究
- (2) 国際的な社会調査史

c 概要と自己評価

2019年度に特別研究期間を取得し、「若手研究者の国際展開事業」（東京大学）の支援により、約半年間、英国に滞在する機会を得たことで、研究は当初の構想をこえて進展した。(1) 日英のハウジングの比較において鍵となる要素として、「ハウジング・マネジメント」に着目した。日本では、住宅管理はもっぱら不動産の管理を指しているが、英国の公共賃貸住宅セクターで発展したハウジング・マネジメントには、居住者およびコミュニティに対するソーシャル・ワークが含まれる。研究成果の一端は、英語論文、国際学会を通じて発表することができた。(2) 英国の社会調査史において重要な位置を占めながら、日本においてほとんど検討が進んでいない1930年代の「大衆観察運動」（Mass-Observation）について、現地資料収集を行い、日本の1920年代の「考現学」との比較を進めた。また、日本の住宅研究の源流と言える1940年前後の建築学者・西山外三の研究活動を再検討した結果、国際的な同時代性のみならず、社会学との接点を見出すことができた。

d 主要業績

(1) 論文

祐成保志、「住居への退却、まちの再生」『新建築』新建築社、93(8)、36-39頁、2018.8

祐成保志、「日本型ハウジング・レジームの転換」、連合総合生活開発研究所編『弱者を生まない社会へ』、35-52頁、2019.2

祐成保志、「住宅研究というフロンティア」、住総研編『未来の住まい』柏書房、161-179頁、2019.3

祐成保志、「大衆の観察／大衆による観察：1930年代イギリスの考現学的実践」『現代思想』青土社、49(9)、191-203頁、2019.7

祐成保志、「団地と「総中流」社会」、『総中流の始まり：団地と生活時間の戦後史』青弓社、126-151頁、2019.11

Sukenari, Yasushi, Implementing the Concept of "housing support" in a Super-aged Society, *Journal of Asian Sociology*, Institute of Social Development and Policy Research, Seoul National University, 48(4): 491-508, 2019.12

祐成保志、「日本における住居社会学の形成：西山外三『住宅問題』を読む」『都市社会研究』せたがや自治政策研究所、12、73-88頁、2020.3

祐成保志・船戸修一・武田俊輔・加藤裕治、「「村の記録」のなかの都市：テレビ・ドキュメンタリーに描かれた農村の変容」、『変容する都市のゆくえ』文遊社、349-379頁、2020.3

(2) 学会発表

国際、Sukenari Yasushi、「Implementing the concept of "housing support" in a super-aged society」、European Network for Housing Research Conference、Harokopio University of Athens、2019.8.28

国際、Sukenari Yasushi、「Domestication of a planned residential environment」、ReVision: Strategies for Renewing Apartment Buildings & Neighbourhoods、九州大学、2019.11.26

(3) その他

Sukenari, Yasushi, Book Review: Housing in Post-Growth Society: Japan on the Edge of Social Transition, *International Journal of Japanese Sociology*, The Japan Sociological Society, 28(1): 211-213, 2019.3

3. 主な社会活動

(1) 他機関での講義等

非常勤講師、日本大学文理学部、「社会学特殊講義3」、2018.4～2018.9、2019.10～2020.3

非常勤講師、静岡県立大学国際関係学部、「人間科学基礎論A・B」、2018.9、2018.12

(2) 学会

国内、日本生活学会、編集委員、2014～

国内、日本社会学会、学術情報支援委員、2015～

国内、日本生活学会、理事、2016～

国内、都市住宅学会、編集委員、2018～、理事、2020～